

## (2) 労働力人口

平成23（2011）年の労働力人口は、岩手・宮城・福島の3県を除き6,261万人であった。

労働力人口のうち65歳以上の人は556万人（8.9%）となり、労働力人口総数に占める65歳以上の人の比率は、昭和55（1980）年の4.9%から大きく上昇している（図1-2-4-4）。

## (3) 就業者の状況

65歳以上の高齢者について、週間就業時間別の就業者数をみると、全産業では1～14時間が88万人（16.1%）、15～34時間が196万人（35.8%）、35～42時間が118万人（21.5%）、43～48時間が56万人（10.2%）、49～59時間が46万人（8.4%）、60時間以上が39万人（7.1%）となっている（表1-2-4-5）。

また、65歳以上の高齢者について、職業別の就業者数をみると、「生産工程・労務作業」が148万人（26.0%）で最も多く、次いで「農

林漁業作業」が113万人（19.8%）となっている（表1-2-4-6）。

## 5 高齢者の社会参加活動

### (1) 高齢者のグループ活動

グループ活動への参加状況についてみると、60歳以上の高齢者のうち59.2%（平成20（2008）年）が何らかのグループ活動に参加しており、10年前（10（1998）年）と比べると15.5ポイント増加している。具体的な活動についてみると、「健康・スポーツ」（30.5%）、「地域行事」（24.4%）、「趣味」（20.2%）、「生活環境改善」（10.6%）の順となっており、いずれの活動も10年前と比べて増加している（図1-2-5-1）。

今後の参加意向についてみると、「参加したい」が54.1%、「参加したいが、事情があって参加できない」が16.2%となっており、参加し

表1-2-4-5 農林業・非農林業、週間就業時間別就業者数（65歳以上）

	従業員総数	1～14時間	15～34時間	35～42時間	43～48時間	49～59時間	60時間以上
全産業	548 (100%)	88 (16.1%)	196 (35.8%)	118 (21.5%)	56 (10.2%)	46 (8.4%)	39 (7.1%)
農業、林業	104 (100%)	17 (16.3%)	40 (38.5%)	21 (20.2%)	7 (6.7%)	12 (11.5%)	7 (6.7%)
非農林業	444 (100%)	71 (16.0%)	156 (35.1%)	97 (21.8%)	49 (11.0%)	35 (7.9%)	33 (7.4%)

資料：総務省「労働力調査」  
 (注1) データは平成22年平均  
 (注2) 総数には「週間就業時間不詳」を含む。

表1-2-4-6 職業別就業者数（65歳以上）

総数	専門的・技術的職業従事者	管理的職業従事者	事務従事者	販売従事者	保安職業、サービス職業従事者	農林漁業作業	運輸・通信従事者	生産工程・労務作業	分類不能の職業
570 (100.0%)	44 (7.7%)	34 (6.0%)	53 (9.3%)	75 (13.2%)	80 (14.0%)	113 (19.8%)	19 (3.3%)	148 (26.0%)	4 (0.7%)

資料：総務省「労働力調査」  
 (注) データは平成22年平均

たいと考える人の割合は約7割となっている  
(図1-2-5-2)。

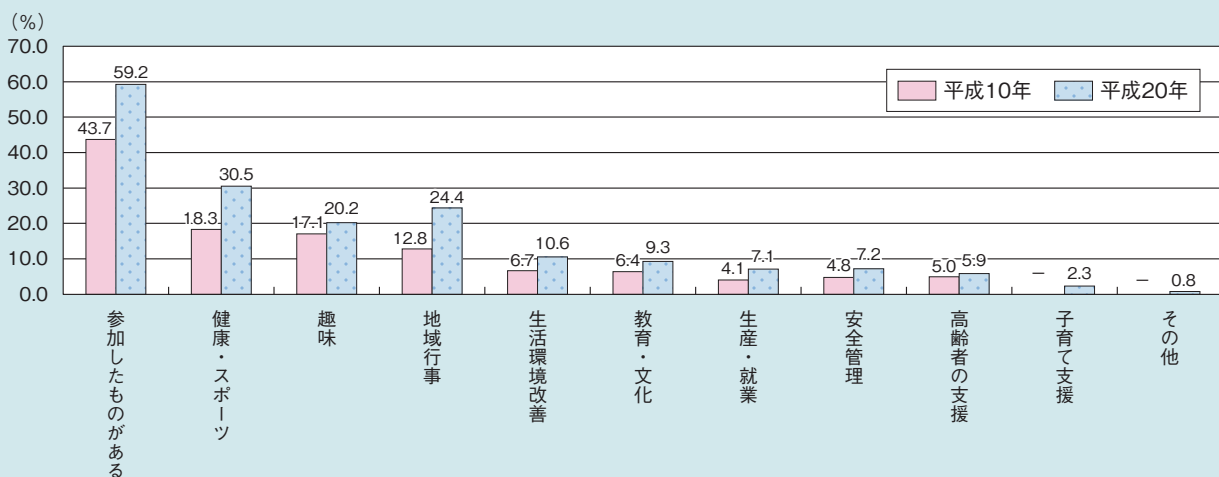
などが開催する公開講座など」が4.8%などとなっている (図1-2-5-3)。

## (2) 高齢者の学習活動

高齢者の学習活動への参加状況についてみると、60歳以上で何らかの学習活動に参加している人の割合は17.4%となっている。活動内容をみると、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が7.6%、「公共機関や大学

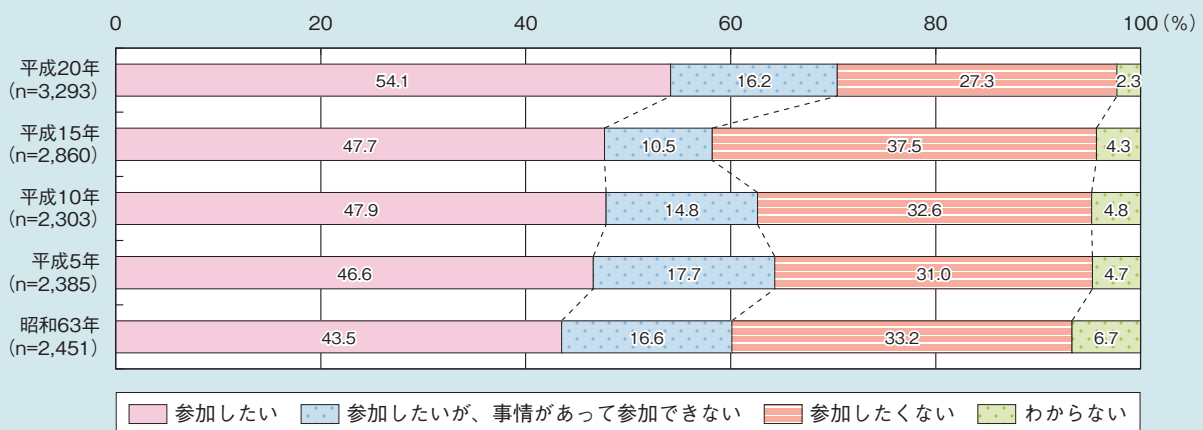
また、行ってみたい生涯学習の内容は、60～69歳は「健康・スポーツ」(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)が60.9%で最も多く、70歳以上では「趣味」(音楽、美術、華道、舞踊、書道など)が57.2%で最も多くなっている (図1-2-5-4)。

図1-2-5-1 高齢者のグループ活動への参加状況 (複数回答)



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
(注1) 対象は、全国60歳以上の男女  
(注2) 「高齢者の支援」は、平成10年は「福祉・保健」とされている。

図1-2-5-2 高齢者のグループ活動への参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
(注) 対象は、全国60歳以上の男女

### (3) 若い世代との交流の機会への参加状況

高齢者の若い世代との交流の機会についてみると、60歳以上で何らかの交流の機会がある人の割合（「よくある」、「たまにある」と回答した人の合計）は平成20（2008）年で54.9%となっている（図1-2-5-5）。

また、若い世代との交流の機会への参加意向

についてみると、参加したいと考える人の割合（「積極的に参加したい」、「できるかぎり参加したい」と回答した人の合計）は平成20（2008）年で62.4%となっており、平成5（1993）年の調査以来、初めて6割を超えた（図1-2-5-6）。

図1-2-5-3 高齢者の学習活動への参加状況（複数回答）

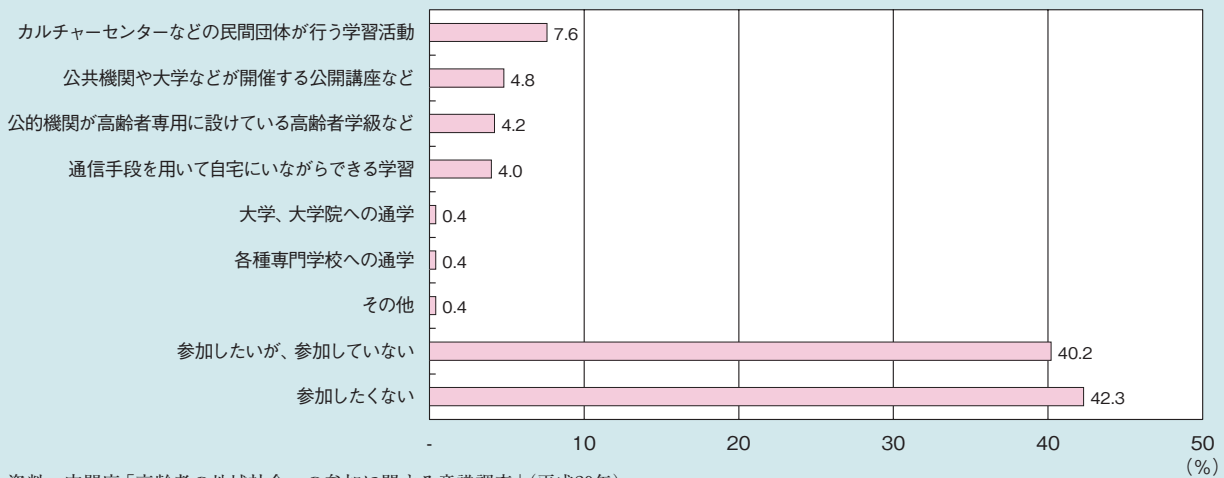


図1-2-5-4 行ってみたい生涯学習の内容（複数回答）

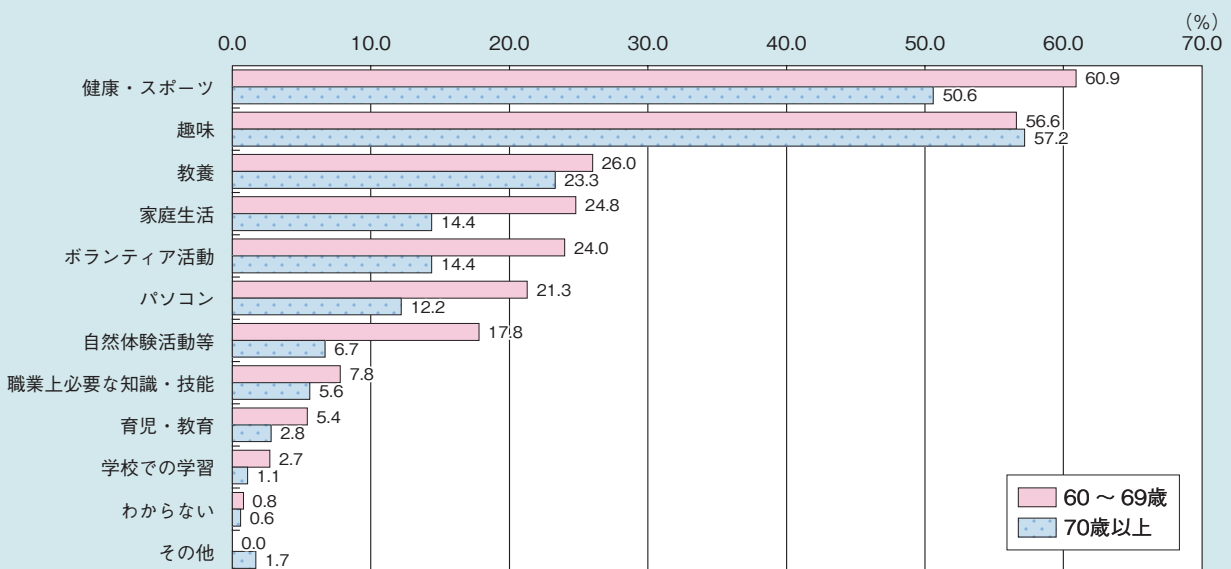
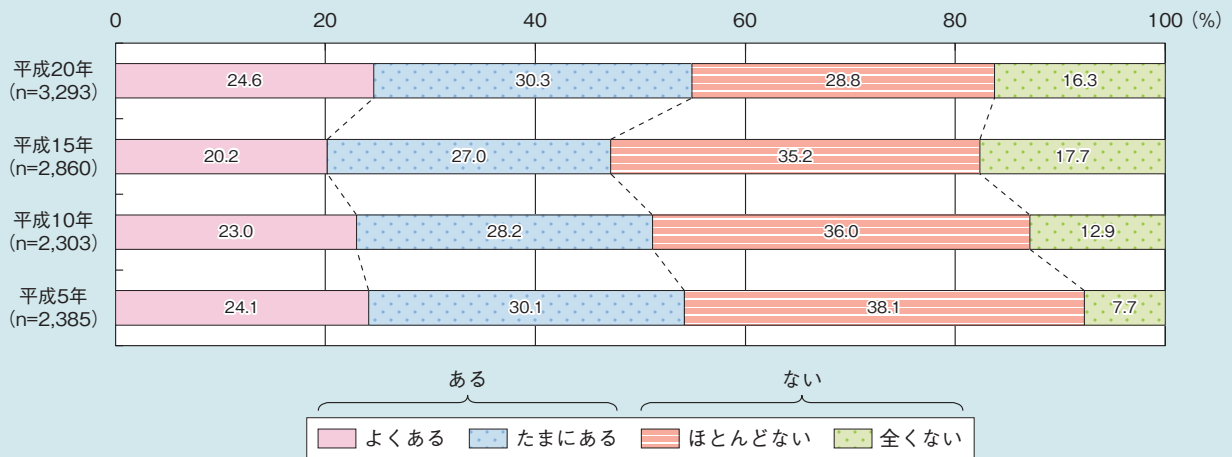
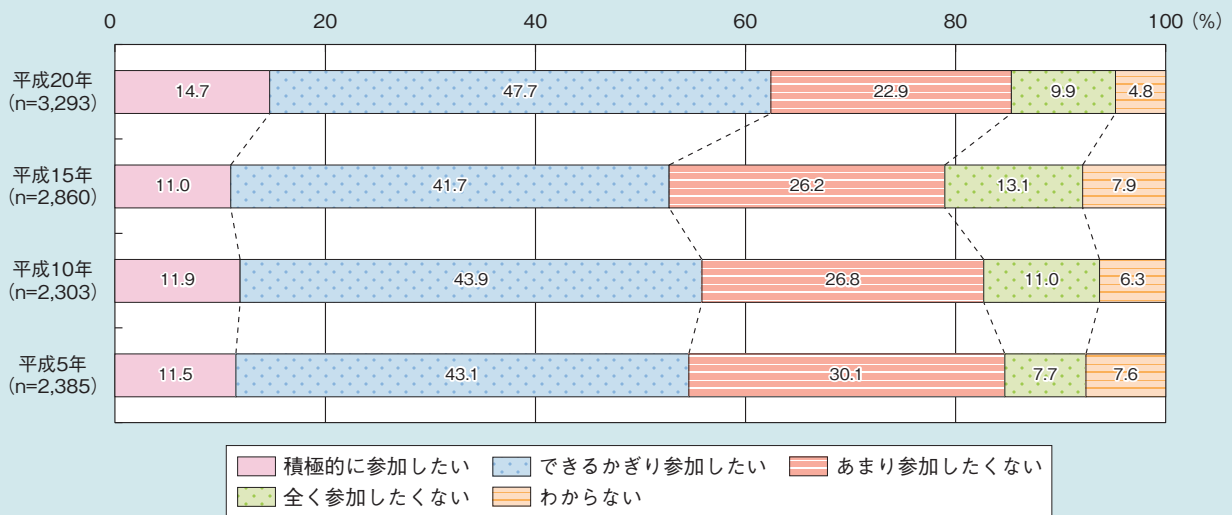


図1-2-5-5 世代間交流の機会の有無



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女

図1-2-5-6 若い世代との交流の機会の参加意向



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
 (注) 対象は、全国60歳以上の男女